
異聞エジプト神話

雪近

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異聞エジプト神話

【Nコード】

N0841BA

【作者名】

雪近

【あらすじ】

エジプト神話の創世神アトウム。彼は後の時代にその立場を太陽神ラーに取って代わられる。人々はアトウムとラーは同一人物と思っているが、実際は違った……。アトウムはラーによって滅ぼされた。そして名前をアポピスと改められた。ラーはアトウムの地位と名を奪ったのだ。アポピスはラーに復讐を誓う。

動けぬ彼は息子のナイルアポピスを刺客として地球に送り込み、ラ

ーはそれに対抗して、娘セクメトを生み出すが・・・！？
古代エジプト神話ファンタジー

堕ちたアトウム（前書き）

マヤ・アステカの伝承によると、世界は四度滅んでます。

人間は全滅の危機のたびに猿に变身したり、鳥に变身して危機を乗り越えます。そして最後に、人間は魚になって大洪水を生き抜いたのです。

大洪水を生き残る話といえば、ノアの方舟なんかも有名ですよ。それとエジプト神話では最初の世界はヌンという混沌の海から始まります。そこからアトウムが世界を作り出すのです。

なんか、混ぜられそうだなあ・・・他にもクトゥルーとかいろいろ混ぜてみよー！

そんな感じで作ったのがこれです。

拙い作品ですが、読んでくれたら幸いです。

墮ちたアトム

アトムは泣いていた。

そこは宇宙の果て。

今なお膨張し続ける宇宙の最先端。

暗く、冷たく、広い星屑の中にアトムは浮いていた。

彼の目に眼球は無い。えぐり取られたのだ。

彼に腕は無い。もぎ取られたのだ。

彼に足はない。捻り切られたのだ。

アトムは漆黒の眼窩から、どす黒い血液を迸らせながら、呪詛の言葉を吐き続ける。

「＝ ！＝ ！！！」

もつとも、舌を切られ、歯を折られ、顎を砕かれているため、なんと言っているかはわからないが・・・それが呪いの言葉であることは確かであった。

彼、アトムが宇宙の果てで、このような姿になっているのには理由がある。

遙か昔、アトムは自分が存在していることに気がついた。

宇宙に1人、彼はただ存在していた。

宇宙は寒く、暗い。どこか、住むところが欲しい。

そう考えたアトムは、ひとつの星に目を付けた。

その星はアトムが住むのにちょうどよい温度で、ちょうどよい大きさの星であった。

彼はその星をゲブと呼ぶことにした。

惑星ゲブには水が無かったので、アトムはまず湿気を作り出し、地表を水で覆った。

次に空気を作り出して、青空を作り出した。

アトムはその星で、地表に生えてきた苔を食べて暮らしていたが・

・やがて自分が「寂しい」ことに気がついた。

話相手が欲しかったアトウムは、土をこねて生物を作り出した。

巨大な体躯をもつ巨人達を作り出したのだ。

鋭い牙や爪、角を持つ巨人達はアトウムを王と呼び、アトウムに従った。

彼らは長い間、アトウムの話相手として地上に君臨した。

しかし、ある日アトウムは飽きた。唐突に、巨人達に飽きたのだ。

巨人達の顔を見るのもうんざりになったアトウムは、大洪水を起こして巨人達を滅ぼしてしまった。

それはとても爽快なことであった。

「そうだ。飽きたら捨てればいい。そして新しいおもちゃで遊べばいいんだ」

アトウムはそう言うと、新しいおもちゃを作り始めた。アトウムが次に作り出したのは、猿人であった。

巨人は大きすぎた。次は細かいのを作ってみようとアトウムは思ったのだ。

猿人は名前の通り、猿のような人類だ。

二足歩行し、両手が使えて、頭が良かった。

彼らもまた、アトウムを王として崇めた。

だが、数千年後。やはりアトウムは、彼らに飽きた。

アトウムは突風を引き起こして、猿人達を宇宙空間に放り出した。もがき苦しむ彼らを見て爆笑しながら、アトウムは次の生物を作り始めた。次にアトウムが作り出したのは、鳥人である。

鳥人とは、鳥のような人類である。

鳥というのは、アトウムが初めに作った巨人を小型改良進化させたもので、空を飛ぶ生物である。

鳥人は、二足歩行し、体の一部分に鳥の特徴があった。背中に羽が生えている人間のような姿もあれば、頭だけ鳥とか、両腕が羽など、様々な姿を持つ鳥人がいた。

これだけ種類がいれば、すぐに飽きることはない。アトウムは考え

た。

果たして、アトウムの思い通り、鳥人達はなかなか楽しいおもちゃだった。

しかし、いかんせん、優秀過ぎた。

時代が進むにつれて、彼らはアトウムを信じなくなり、科学や魔術の技術はアトウムに迫る程に進歩した。

アトウムは飽きではなく、焦燥感から彼らを滅ぼそうとした。

アトウムは地震を起こし、火山を爆発させて鳥人抹殺を試みた。

しかし、優れた知識と技術を持ち、飛行能力をもつ個体も存在する鳥人達である。

大災害で大きく数を減らしながらも、彼らは全滅を免れた。

アトウムは鳥人達の文明が破壊されたことを確認すると、生き残りには目もくれずに新しい生物を作り始めた。

鳥人は全滅させるには惜しい。

アトウムはその時、そう思ったのだ。次にアトウムは人間を作り出した。

人間というのは、人間のことだ。これはアトウムが二番目に作り出した猿人を、改良進化させたものだ。

肉体的性能は猿人に劣るが、知識欲求が高く、好戦的であり、群れることを好む。

彼らは鳥人の遺跡を発掘しては、技術を進歩させた。そして、同族同士で争い合うかと思えば本能に逆らって生殖を拒んだり、自殺したりする面白い種族であった。

アトウムは長い期間とても楽しく過ごしたが……やっぱり飽きた。

アトウムは洪水を起こして、人類の抹殺にかかった。

科学に盲信し、肉体的に脆弱な人類は、突如、大陸全土を飲み込む津波に抗う術はないはずであった。

6日間にわたる大嵐が過ぎ、アトウムは「もう全滅したろう」と思い、地上に姿を現した。

しかし、人類は生き残っていた。

アトウムの目の前に巨大な方舟が、海に揺れていた。目を見開くアトウムの前で、方舟の屋根が開いた。

船から現れたのは、アトウムの良く知る種族であった。

鳥人族。

かつて、アトウムに迫り、アトウムに滅ぼされ、アトウムが見逃した種族。

彼らは、アトウムが洪水を起こすことを見越して、方舟を作っていたのだ。

そして人間達を方舟に乗せて、助けたのだ。

アトウムはその事を理解すると同時に、激怒した。

見逃してやった恩を忘れ、創造主のやることに刃向かうとは！

アトウムは船を沈めるべく、方舟に襲いかかった。

だが、激怒しているのは鳥人族や、人類だって同じである。

アトウムなど彼らにとっては創造主ではなく、復讐すべき悪鬼なのだ。

ここに、創造主対鳥人・人類連合軍の一大決戦が始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0841ba/>

異聞エジプト神話

2012年1月1日23時53分発行